



寄贈品コーナー

「現生と化石の貝 - 高木コレクションと大磯の化石 - 」

期間：1997年11月1日（土）～11月29日（土）

日本列島の貝類には、暖流の黒潮の影響下で生息するものと、寒流の親潮の影響下で生息するものがあります。ここでは最近寄贈された高木コレクションから、寒流系と暖流系の貝類を紹介します。高木コレクションは、高木俊男氏より寄贈された現生貝類と化石貝類のコレクションで、収集された範囲は全国各地に及び、北海道の寒流系の貝類が多くを占めています。現生標本420種類、化石標本260種類、総計2650点程あり、現在まだ整理が進行中です。氏は化石を研究するために、各地の現生種を比較のため収集され、なかでも、イタヤガイ科・カガミガイ類・エゾバイ科などを多量に収集されました。この中には、高木氏自身が新種として記載されたトミカワカガミガイも含まれており、極めて貴重な資料といえます。相模湾の貝類と比較するにも良い資料となります。

また、今年、大磯町虫窟で日本道路公団によって現在行われている小田原厚木道路工事現場から二宮層の化石が多量に得られましたので、併せて紹介することにしました。かつての相模湾の貝類化石を、高木コレクションと比較して見てください。